

GRIPS 国内同窓会報

発行日：2019年6月24日 発行者：政策研究大学院大学国内同窓会 発行責任者：名取はにわ

事務局連絡先：〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1 TEL 03-6439-6047 E-mail alumni@grips.ac.jp

GRIPS 恩師インタビュー

GRIPS恩師インタビュー第2回は刀根先生です。刀根先生にインタビューのお願いをさせていただきましたところ、先生から原稿を早々に頂戴いたしましたので、今回は原稿掲載とさせていただきます。

刀根 薫 Kaoru Tone

1953年東京大学理学部数学科卒業、1976年工学博士(慶應義塾大学)、慶應義塾大学理工学部を経て、1977年埼玉大学大学院政策科学研究科教授、1997年政策研究大学院大学教授、2008年同名誉教授。1996年から97年、日本オペレーションズ・リサーチ学会会長を務める。

CONTENTS

GRIPS恩師インタビュー第2回

刀根 薫 政策研究大学院大学名誉教授……1
修了生紹介 政策の現場から

群馬県副知事 反町敦さん……………5

オンライン修了生名簿をご活用ください……………5

同窓会・同窓会各支部からのご案内……………6, 7

ご案内 | 2019年度国内同窓会

ご案内 | 国内同窓会役員選出について

ご案内 | 埼玉県支部発!

埼玉下水処理場見学ツアー

ご案内 | カルチャーデイにお越しください

報告 | 東京消防庁消防学校見学ツアー

報告 | 第2回国内同窓会を開催

～恩師・同窓生と再会!

若松町はいま…

大学からのご案内……………8

GRIPS News

2020年度入学者募集が始まります!

GRIPSのSDGsへの貢献

GRIPS基金へのご協力をお願い

原稿募集のご案内

編集後記……………8



今年の桜もきれいに咲きました。

第2回 刀根 薫 政策研究大学院大学名誉教授

私のライトモチーフ

刀根 薫

tone@grips.ac.jp

はじめに

私は埼玉大学政策科学研究科(GSPS)の第1期(1977年入学)から23期(1999年入学)までとGRIPSの第1期(2000年入学)から12期(2011年入学)まで、主として「計画と評価の数理」について講義をし、修士論文と博士論文の指導を行ってきた。現在はfreeで、外国に行ったとき、「I have no teaching, no meeting, and hence no power, while just enjoying research.」と言うと「Oh! Great! You are in Paradise.」とか「You are in noisy Paradise, because you play violin.」とかかわれることがある。実際、論文で難所にぶち当たるとviolinに行き、violinで難所に遭遇するとまた論文に戻るという繰り返しの毎日、両方ともなかなか完成しない。このような単純な Markov process がいつまで続くことやら。

1. 私のライトモチーフはFBI

GSPS、GRIPSの院生の主体は文系である。このような院生にいきなり数理の話をしてはなかなか乗ってこない。そこである年度から、一計を案じて講義の始めの15分ほどに「私のライトモチーフ」を挿むことにした。落語でいう枕である。効果はテキメンで遅刻者が減りその後の数理の話にスムーズに入っていた(と自分では思っている)。もっとも昔の卒業生から「先生の数理の部分は忘れたが、ライトモチーフのところだけはまだよく覚えています」といわれたことがある。何をか言わんや。しかしこういう効果もまたよしとしよう。

そこで、

私のライトモチーフは**FBI**

Fantastic
Beautiful
Interesting

である。私のFBI初体験は幼稚園児の頃キンダーブックで見た「ピサの斜塔」である。後年、何度もピサ大学数学教室に滞在して斜塔を堪能した。もしあれが真直ぐ建っていたら、Galileo Galileiの実験もなかったであろうし、そうであれば物理学の歴史も数世紀遅れたであろうし、世界中からピサに押寄せる

観光客もなかったであろうし、その結果ピサ市の財政は破綻したであろうし、私のイタリア行きの回数も減ったであろうし、その結果スリに会う回数も減ったであろう。まことに歴史のifの影響は大である。そういった体験も含めて、私がFBIと思う都市、絵画、陶磁器、音楽、楽器、作曲家等をPowerPointを使って講義の前15分間で紹介したが、ここではその中からコレクションをいくつかを紹介しよう。

2. 私の空想コレクション

絵画のコピーを直接記載することは著作権の侵害になるので画題だけを記します。ネットで探して下さい。

(1) 田中一村(1908-1977)

奄美に移住してひたすらFBIを追及した田中一村の絵は眺めていて身が引き締まる思いがする。『アダンの木』『クワズイモとソテツ』

(2) Giorgio De Chirico(1888-1978)

Chiricoの絵は楽しい。どの絵にも双対性が活かされている。『夢の変容』『イタリアの広場』『Ariadne』

(3) Balthus(1908-2001)

Balthusの絵を最初に見たのはNew YorkのMoMA(Museum of Modern Art)であったが、そのものすごいFBIには感動した。2001年の没後最初の回顧展を見るために真冬のVeneziaまで行ったことが懐かしい。Hotel Vivaldi(こういう名前のホテルがあるのも嬉しい。勿論Violin Concertoで有名なあのVivaldiである)に1週間滞在して毎日通った。『Golden days』『The mountain』『The Street』『Le Passage』

(4) 景德鎮

景德鎮の陶磁器を見るために北京、台北、Istanbulまで足をのばした。台北の故宮には北京の故宮よりも優れた景德鎮がある。しかしIstanbulのトプカプ宮殿には世界一と言われる景德鎮のコレクションがあり、オスマン帝国のスルタンの豪勢な生活がしのばれる。モーツァルトの「トルコ行進曲」や「後宮よりの逃走」に見られるようにトルコは昔も今も話題豊富な国である。世界各地の美術館、博物館、窯元で陶磁器を見たが、景德鎮より優れたものは少ない。

(5) Stradivarius(1644-1737)

Stradivariusにはとても手が出せないが、Cremona, Firenze, New York, Oxfordでたっぷり見てきた。眺めるだけでも楽しい。

(6) César Franck (1822-1890)

ベルギー生まれのこの作曲家はドイツ音楽のロジックとフランス音楽のエスプリを半音階的和声進行と循環形式で統一している。その代表作がViolin Sonata (1886)である。そこでは数理計画でいう主問題と双対問題が巧みな対位法とフーガによって展開されている。



Franck Violin Sonata: 刀根 + 高橋徹 (GSPS 9期)
<https://youtu.be/i5AU8RBue3g>

3. 数理計画のFBI

線形計画の双対性

[Primal] $\max_x cx$
 subject to $Ax \leq b, x \geq 0$

[Dual] $\min_y yb$
 subject to $yA \geq c, y \geq 0$

線形計画の双対定理

Dantzig-von Neumann (1947)

Gale-Kuhn-Tucker (1951)

- [Primal]の可能解の目的関数値は[Dual]の可能解の目的関数値を超えることはない。
- 最適解においては両者は一致する。

双対定理の位置づけ

Fantastic 表の世界と裏の世界を結ぶ絆

Beautiful 全く無駄のない、研ぎ澄まされた表現

Interesting 無限に広がる応用

4. Data Envelopment Analysis (DEA)をめぐる

DEAとの係りはCharnes、Cooper両先生との交流から始まった。

4-1. Charnes先生

1984年が私にとってDEAの事始めであった。この年IFORS'84(8月6日-8月10日)がWashington DCで開催され、日本OR学会から森口繁一先生を団長とする視察団が組織されたが、私はその一員として参加した。IFORSの後、AT&T Bell LabやIBM Watson Research Centerを視察して、New Yorkで解団した。その後、U. Rochesterで住田潮氏のお世話になり、最後にU. Texas at AustinのAbraham Charnes 先生(愛称Abe)を訪問した(9月20日-9月26日)。先生からはDEA研究の現状について教えられるとともに、共同研究を強く要請された。また日本でのDEA普及に助力して欲しいと依頼された。ここで衝撃的なニュースが飛び込む。それは9月21日号の雑誌Scienceの記事である。「A Fast Way to Solve Hard Problem」という見出しで、「線形計画の新解法はあまりに速いので、専門家もびっくり」「5000変数の問題をIBMプログラムより50倍も速く解いた」と続いている。Karmarkar法の出現である。このようなリーク記事がソースも明らかにしないまま、論文の所在も明示せずに

学術誌以外の場所に突如として出現したために、Charnes先生は極めて懐疑的でBell LabのKarmarkarの上司に電話でこの非学術的開示を厳しく抗議していた。しかしこれが内点法の始まりで世界中の数理計画研究者の血を沸き立たせる。

私も半分程酔っていたが、1986年の暮れにCharnes先生から国際電報が届いた。当時はemailが無かったのでair mailが主な文通の手段であったがせっかちな先生は電報を用いていた。その冒頭は“No Karmarkar, no, no, no”とあり、DEAのあるテーマについて共同研究をしたいのでTexasに来て欲しいという主旨で、その10日後には10センチほどの厚さの資料が届いた。という訳で2度目のTexas行きは1987年1月25日から2月7日までの2週間であった。テーマは無限個のDMU (decision making unit)に対するDEAの解法。DEAでは通常DMUの個数は有限個であるが、これが無限個になった場合どう解くかという問題である。研究結果は“A Computational Method for Solving DEA Problems with Infinitely Many DMUs” by Charnes and Tone (Research Report CCS 561, Center for Cybernetic Studies, The University of Texas, at Austin, January 1987) として出されたが、一昨年John Wiley & Sonsから出版した本(Advances in DEA Theory and Applications with Extensions to Forecasting Models, Edited by Tone) に再録した。この論文は私の最初のDEA論文であったが、先生と文字どおりtête-à-tête で論文の細部まで検討できたことは貴重な体験であった。この論文にはReferenceとして、「Kortanek, K.O. (1979) Interpolation and Error Bounds for Semi-infinite Programs and Solution of Nonlinear Systems of Equations. Manuscript.」のみが記載されていた。Wileyの本を出すにあたり、出典を確認しようと思ったが、Charnes先生亡き後(1992年没:享年75歳)探しあぐねていた。Kortanek先生とは面識がなかったが、ネットを利用して「友人の友人」でたどり着き3日後には返信が届いた。その冒頭には“Dear Professor Tone; Both of us have greatly benefited from knowing Professor Charnes! Our scientific lives benefited greatly.”とあり、原典は Gustafson, S.A. and Kortanek, K.O. (1973) Numerical Treatment of a Class of Semi-infinite Programming Problems. Naval Research Logistics Quarterly, 20, 3, 477-507. であると教えていただいた。これで30年来の疑問が解けた。Charnes先生のおかげでDEA研究の第一世代のプレイヤー達の知遇を得たことは幸運であった。先生の揺籃には第二世代のプレイヤーが続々と誕生していて、さながら梁山泊もかくやと思わせる情景であった。

その後、先生とは1988年のISMP(東京)、1990年のIFORS(アテネ)でお会いした。時として、というか常にlikes and dislikesを明確に表したが、その強く熱い人格にはいつも感銘を受けた。

この数理界の巨星のいささか早い逝去は惜みても余りある。

4-2. Cooper先生

さて、DEAのもう一人の創始者であるWilliam W. Cooper先生(愛称Bill)には既にTexasで紹介されていたが、先生が1993年に青山学院の招待で来日されてから本格的な交流が始まった。そこで本を共著で書くことになったが、それまで出版されていたような、ProceedingsやMonographではなくて本格的なText Bookで章毎に問題と解答を付けるということで合意した。初稿は私が書き、Cooper先生がそれに加筆修正することになった、当時は現在のようなWordの機能がなかったので、原稿のやり取りは、FedEx便で太平洋を数十回往復することになる。ここでCooper式英文の洗礼を受けた。私がほんの数行で書いた原稿が、

接続詞と関係代名詞でつながった数ページになって戻ってくる。私の monophonic な英文に対して、polyphonic な修正がなされる。そこには行列簿記のように行の小計の和と列の小計の和が一致するというような論理展開が一貫している(先生は米会計学会の重鎮でした)。また Introduction と Background and History Survey が詳細に追加され、さすがは創始者の自負を感じさせた。私は今を去ること69年前、大学の教養部の学生の頃、Reclam 文庫で哲学者 Emmanuel Kant の Prolegomena zu einer jeden künftigen Metaphysik, die als Wissenschaft wird auftreten können を読んだ時、この高名な哲学者が多重構造の長い文章で自分の思考を表現するのに驚嘆したことがあるが、それに相当するような体験を Cooper 先生の文章から受けた。最後に Lawrence W. Seiford (U. Massachusetts, 現 U. Michigan) の書誌と私の Solver が追加されて、Kluwer Academic Publishers から1999年に出版された。この本は世に好評で迎えられたが、Kluwer の名編集者 Gary Folven から「クラシックと呼ばれる本は Second Edition から始まる」と「おだて」とも「おどし」とも取れる要請があり、さらに6つの章を追加して2006年に Springer から出版した。Kluwer は M&A で Springer に吸収されていた。初版の318ページが、2版は490ページに膨れ上がった。この間の DEA の発展を反映したものである。

先生と最後にお会いしたのは2010年 Austin で行われた INFORMS の年次大会であったが、ここでは Special Session “In Honor of Bill Cooper” が持たれた。そこには第一、第二、第三世代の DEA プレイヤーが揃っていた。先生は2012年に97歳で天寿を全うされた。Austin から届いた訃報に接したときの深い悲しみは言葉に表せない。

5. DEA の適用例

私が関係した DEA の適用例の要点を紹介する。

5-1. 首都機能移転計画

首都機能移転は、東京一極集中の是正、国政改革の契機及び災害対応力の強化を目的とした、世紀を超える国家の大事業である。国会等移転審議会は国会の同意を経て内閣総理大臣が任命した19名からなる審議会平成11年(1999年)12月に移転先候補地10地域を選定した。私は国土庁(現:国土交通省)の依頼で首都機能移転企画課の高村義晴氏(当時)と協力してこの審議会のためにグループデシジョン合意形成法を AHP と DEA をもとに開発し、適用した。まず、候補地を評価するための AHP を作成した。最終的な評価項目として18個を選んだ。例えば、「文化形成の方向」、「地震災害に対する安全性」、「火山災害に対する安全性」、「外国とのアクセス容易性」、「東京とのアクセス容易性」、「環境との共生」等である。AHP の一対比較によって各評価項目の重要度(ウェイト)を委員毎に決めた。次に、各評価項目に対する10の候補地の得点を5点満点で評価した。この評価には14の検討会に70余名の専門家(例えば「地震災害」、「情報ネットワーク」、「環境問題」等の専門家)が参画した。DEA ではこの値が各候補地(DMU)の評価項目に対する得点(出力)となる。入力共通で1である。出力に対するウェイトを制限するために、AHP によって求めた各委員の重要度をもとに DEA の領域限定法を適用した。こうして各候補地の有利度を測定した。同時に、山田善靖先生等の考案した Inverted DEA を用いて各候補地の不利度も測定した。この結果、有利度が高く、不利度が低い栃木・福島、岐阜・愛知の2地域が選ばれた。三重・畿央地域については高速道路網が整備された場合に有力な候補地になり得るとした。1999年12月20日に内閣総理大臣に移転先候補地について答申し、同答申は直ちに国会に報告された。その後の経済不況等

のため実行に移されていないが、国土交通省のホームページには <http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/iten/> として記載されて残されている。東日本大震災(2011年)、熊本地震(2016年)さらに首都直下地震の発生が想定される状況下でこの課題は再び国家的関心事となっている。

5-2. NTT の上限価格算定

郵政省(現:総務省)では1998年に規制緩和推進計画の一環として電話料金の個別認可制を廃止し、届出制とすると共に加入電話等の基本的なサービスについては上限価格(プライスキップ)方式とすることを決め、2000年10月からこの方式を採用することにした。郵政省は「上限価格方式の運用に関する研究会」(1999年、座長:岡野行秀東京大学名誉教授)を設けこの新方式に関する検討を行った。私はこの研究会に委員として参加し、主として、DEA による NTT 東・西のコスト効率性測定を行った。公共財の料金設定は大きな社会問題である。上限価格方式はそのための有力な手段として英米等で、電話、電力、水道等の料金設定に採用されている。

上限価格を決定するための重要な要因として「消費者物価指数(CPI)」と「生産性向上見込率(X値)」がある。一般に前期の料金指数から今期のそれを決めるための基本的式は次のとおりである。

$$[\text{今期の料金指数}] = [\text{前期の料金指数}] \times (1 + \text{CPI} - X) \quad (1)$$

CPI は公表された値を用いるとして、問題になるのは X 値である。この式による料金指数の改定が t 年間継続した場合 t 年後の収入は予測される収入(R)に対して

となる。この値が t 年後の $R \times (1 + \text{CPI} - X)^t$ 「費用(C)」と「適正報酬額・利益対応税額(P)」の和に等しくなると考える。すなわち

$$R \times (1 + \text{CPI} - X)^t = C + P \quad (2)$$

この式から X 値は 次式により計算される。

$$X = 1 + \text{CPI} - \sqrt[t]{\frac{C + P}{R}} \quad (3)$$

収入(R)、費用(C)および適正報酬額・利益対応税額(P)としては、過去のデータや NTT 東・西の「中期経営改善施策」から予測した値を用いる。その際、費用の予測値が妥当なものであるかどうかを、NTT の持っているコスト非効率性という面から検討した。そのため DEA のコスト効率性を適用した。

NTT は NTT 東(北海道、東北、東京、関東、信越)の5事業部と NTT 西(北陸、東海、関西、中国、四国、九州)の6事業部、合計11事業部からなる。これらの事業部の1994-1997年の4年間の活動を対象とした。したがって、DMU 数は44である。費用効率性を計測するために、各 DMU について次のようなデータを集めた。

入力1: 労働、入力2: 資本、入力3: 原材料

出力1: 音声伝達、出力2: 専用

コスト1: 労働、コスト2: 資本、コスト3: 原材料

これらのデータを用いて、各 DMU の技術効率、純粋な技術効率、コスト効率、補正済コスト効率を計測した。

上限価格決定のためにはまず(3)式により X 値(生産性向上見込率)を決める。そのため CPI としては1999年の変動率 -0.3%を用いた。さらに、NTT 東の音声伝送役務(電話+ISDN)の場合、収入(R)=14,898億円

(これは重回帰分析とトレンド予測の併用による値)、費用 (C)=13,308億円(これはNTT東が「中期経営改善施策」に示した値でDEAのコスト非効率率を除くことによって可能な値である)、適正報酬額・利益対応税額 (P)=843億円とした。またt=3(年間)とした。その結果X=1.9%となる。このXとCPIを(1)式に代入してNTT東の音声伝送役務の基準料金指数は97.8%となる。同様の計算を専用役務、加入者回線についても行い、電気通信審議会の議を経て2000年6月21日に郵政大臣からNTT東・西に通知された。NTT東・西はこの通知を受けて、2000年8月31日に料金変更の決定を行い、10月1日から実施した。郵政大臣が通知した上限価格とNTTの料金指数は表1のとおりである。ほぼ上限価格に近い値に収まっている。

表1 上限価格と値下げによるNTT指数

	音声伝送役務		専用役務	
	上限価格	NTT指数	上限価格	NTT指数
東	97.8%	97.4%	97.6%	95.8%
西	97.8%	97.8%	97.6%	96.3%

詳細な内容については以下を参照されたい。
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/daijinkanbou/030418_5.pdf

5-3. 次世代スーパーコンピュータの設置場所

次世代スーパーコンピュータの開発プロジェクトは2012年までに10Petaflop/sのシステムを開発するという国家的な事業であった。1,150億円を投入したこのプロジェクトは国会の承認を得て理化学研究所(理研)が担当することになった。2006年7月に理研はその設置場所を全国的に公募したが、15の都市が応募した。理研は場所選定のための委員会(委員長:黒川清日本学術会議会長(当時))を組織した。14名のこの委員会に私は選定方法担当として参加した。他の委員はスーパーコンピュータユーザー、ソフトウェア専門家、システム設計家からなる。選定方法としては首都機能移転の場合と同様にAHPとDEAを併用した。評価項目としては地震、雷、気候、土地の拡張性、電力、ガス、水、通信ネットワーク、近隣災害等24個を用いた。各評価項目に対する15の候補地の評点を各分野の専門家によって決めた。次に各評価項目の重要度を6名の選定委員がそれぞれAHPを用いて評価した。その評価値を用いてDEAの領域限定法により各候補地の有利度(Positives)と不利度(Negatives)を測定した。その結果、最終候補として5都市(仙台、和光、横浜、大阪、神戸)が選定された。その5都市について現地視察を重ねて、24個の評価項目に関するより正確な評点を得た。これをもとに5都市を再び領域限定法によって評価した。その結果、有利度、不利度の両面から図1の結果を得た。2007年3月29日に理研は“The Winner is Kobe”として神戸に決定した。スーパーコンピュータ「京」はその後も改良を重ねて利用されている。

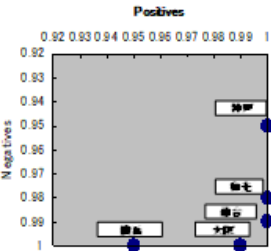


図1 有利度と不利度
(Figure 31.6 in Advances in DEA Theory and Applications, by Tone, John Wiley 2017)

6. Slacks based Measure (SBM) of Efficiency
DEA and Duality Creation of Slacks-based Measure

・Tone (2001), A slacks-based measure of efficiency in data envelopment analysis, European Journal of Operational Research 130, 498-509.
・Tone (2002), A slacks-based measure of super-efficiency in data envelopment analysis, European Journal of Operational Research 143, 32-41
この2編の論文は私の現在までの代表論文とされている。その後の関連論文(Network SBM, Dynamic SBM, Dynamic and Network SBM, Undesirable output SBM, EBM, SBM_Max等)も含めて引用件数は5,000を超えている。私の全著作(論文と著書)の引用件数は約20,000 (Google Scholar Citation:2019/02/19現在)であるからSBM関連論文の注目度が高いことが分かる。EJORの調査によると直近2年間の論文引用回数の第1位はCharnes-CooperのDEA、第2位は私のSBM、第4位はSaatyのAHPが入っている。目下のところSBMは私のブランド名になっているが何年もつか興味しんしん。

終わりに
顧みると私の人生の半分近くをGSPS、GRIPSで過ごしたことになる。事務方をはじめ関係者一同に感謝したい。その間GSPS、GRIPSから松田不二夫、吉崎収、山本亮三、西岡誠治、高橋徹、転馬潤、錦織(藤井)睦子、藤井光久、室谷洋一、三村庄一、岩崎誠司、西本和博、満江正博、児玉祐一郎、中林健の諸君が日本OR学会学生論文賞(昭和58年ー平成14年)を受賞している。GSPSではORの演習と称して荒川の河川敷で院生とゴルフに興じた。動的計画法の最短ルートで攻めるはずが、そうはならず、荒川のハザード(OB)にボールを大量に打ち込んでいたのも懐かしい思い出である。GRIPSでは博士課程が始まったので、共著論文が増えた。Reviewersからの厳しい注文に対して、院生と真剣に反論を書いていたのも楽しい思い出である。GRIPS博士:中林健(防衛省)、龍俊明(Mitsubishi UFJ Securities)、筒井美樹(電力中央研究所)、Kidanemariam Hailu (FDRE Policy Study and Research Center, Ethiopia)、Xing Zhang (FiNC, Tokyo)やPost Docで2年間在籍したBiresch Sahoo (Xavier U., India)の諸君とは共著論文を書いている。インターネットの普及で共著の輪が広がり、共著者の国籍は日、米、英、豪州、台湾、中国、インド、カナダ、フランス、イラン、エチオピア、ベトナム、マレーシア、UAEにおよぶ。
さてさて、ボードレールの詩Enivrez-vous(酔っていたまえ)にいざなわれてFBIの旅を過ごして来たが、まだまだ醒めてはいけないのだろうか。天国のCooper先生からはまだ早いと言われるだろうが。

Thank you my friends!!



Tone (1931-2022)

修了生紹介 政策の現場から2

「群馬のミライ」

群馬県副知事 反町 敦さん

本学の修了生の皆さんは、多様な政策の場で活躍されています。会報では、皆様の業務の参考やネットワーキングのきっかけになればとの思いから、多様な分野で活躍する修了生の皆様をご紹介します。

今回は、群馬県副知事、反町 敦(そりまちあつし)さん(GSPS1988年修了)です。反町さんは、GSPS修了後、群馬県総務部秘書課長、企画部長等を経て、2015年副知事に就任されました。特に、子育て支援や児童相談などのこども

の未来に関すること、健康と福祉に関すること、森林・林業、農業に関することなどを担当されています。前回登場くださった福島県副知事の鈴木正晃さんと実はGSPS同期でいらっしゃいます。



私たち(県職員)は何のために働いているのか？人々(県民)を幸せにするため？そもそも「幸せ」とは何か？当然ですが、その人その人によって「幸せ」は異なります。我々行政がなす

べきことは安全で安心な社会、経済的・文化的にも豊かな社会を築くことでしょう。

現代社会には人手不足、後継者難、人口減少、児童虐待、いじめ、障害者の就業、高齢者運転事故等々の課題が山積しています。

「人間は考える葦である」はパスカルの言葉ですが、我々は、これらの問題に対して、あるべき姿は何なのか、それを実現するためにはどんな政策が必要か、そして現実を表すデータはどうなっているのか考えなければなりません。その原点は約30年前に政策科学研究科で過ごした日々です。政治のパラダイム、データの相関関係、社会・経済の構造分析、それらのエッセンスだけは今も私の頭の中で生き続けています。

現在の私の毎日は、登庁後、新聞の閲覧から始まります。全国主要6紙と地元紙の上毛新聞に目を通します。社会の流れ、重要事件、県政情報の扱い方等についてチェックしますが、連

休があると大変です。その後、概ね10時頃から各部局長の知事協議に同席します。午後は行事、会議への出席、来客応対、所管部からの協議等が続きます。新聞報道を読みながら、あるいは部長との協議の中で、何が問題なのか、それをどう解決しようとするのか、常に自問自答しながら「部下が用意した資料を説明するだけの部長は失格ですよ」と指導しています。(笑)

また、5年前から、知事、副知事、部局長等の前で若手職員が政策をプレゼンする機会を設けました。県境稜線トレイルによる魅力発信、シングルマザーのための県営住宅を活用したシェアハウス等実現される政策も多くなりました。

温泉と山々に囲まれ、東京からも約1時間、上越・北陸新幹線が高崎駅に乗り入れ、高速道路が十時軸を形成し、古くから産業が発達し、人

情豊かな魅力あふれる群馬県。来年3月には高崎駅東口にコンベンションセンター「Gメッセ」が完成し、人、もの、情報の交流拠点となり、産業の創造にも寄与するでしょう。

飛行機の窓から夜明けの空を見ていると、漆黒の闇から紺青色、薄青色、そしてオレンジ色、やがてまぶしい太陽の光に変わっていく、そんな天空のグラデーション(境目のない色の移り変わり)に魅了されます。いつの間にか変わっていくという点では社会の変化も同じではないでしょうか。年月は毎日の積み重ねですが、気が付いたら社会は変わっているのです。現在から未来へ続く日々が明るい社会へのグラデーションであって欲しいと日々願いながら毎日を過ごしています。



Gメッセ鳥瞰図

オンライン修了生名簿をご活用ください

オンライン名簿は、国籍、所属機関、修了年度、プログラムという枠を超え、国内外に広がる政策形成に携わるネットワーク構築に役立てていただける貴重な財産です。ぜひご活用ください。

皆さんに情報を登録、更新、公開、利用していただくことでよりよい名簿になります。今後、**ご連絡先(個人メールアドレス)及び勤務先情報は、原則として「公開」とさせていただきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。**

何ができる？ GRIPS/GSPS修了生情報(出身国、勤務先、プログラム、メールアドレス等)が検索できます。

どう活用する？ 「担当業務で行き詰った時、他県の担当者を探し、情報交換をする」、「自分の県・市と国際友好都市になった国の修了生を探す」、「取引先に修了生がいるか探す」などにご利用いただけます。

アクセス方法は？

<https://gportal.grips.ac.jp/fw/dfw/ASTSV004/>にアクセス。GRIPSのID(学籍番号)とパスワードでログイン、表示されたGateway画面から、「メニュー」→「教員・学生検索」→「修了生検索」で検索画面

が表示されます。

ID(学籍番号)を忘れてしまったら？ 同窓会担当(alumni@grips.ac.jp)までご連絡ください。

パスワードを忘れてしまったら？ ログイン画面に表示される「Forgot your password?」をクリックして、再設定してください。

情報はどこまで公開される？ オンライン名簿上での限定公開です。修了生、学生、教職員など、ログインID及びパスワードをお持ちの方

にのみ公開されます。

情報の登録、公開にご協力ください。



同窓会・同窓会各支部からのご案内

ご案内 | 2019年度国内同窓会

2019年度の国内同窓会は、11月23日(土・祝)に決定しました。ぜひご予定をお願いいたします。「〇〇先生の講演が聞きたい」「担当している政策について発表したい」「このテーマでのディスカッションがしたい」などご希望がありましたら、alumni@grips.ac.jpまでお寄せください。

2019年度国内同窓会(予定)

日時:2019年11月23日(土・祝)

第一部(総会・報告会等)15時00分～ 第二部(懇親会)17時30分～

会場:政策研究大学院大学

詳細は決定次第あらためてご連絡いたします。Please save the date!

ご案内 | 国内同窓会役員選出について

2017年11月23日開催の国内同窓会にて選出された現役員が任期(2年)満了となることから、政策研究大学院大学国内同窓会会則第4条第2項に基づき、会員の皆様の互選により次期会長の選出を行います。横道政策研究大学院大学理事・副学長を委員長とし、選挙管理委員会を立ち上げました。委員会事務局は、大学事務局が担当します。

つきましては、会長、副会長及び幹事に立候補くださる方は、2019年8月31日(土)までに、大学事務局同窓会担当(alumni@grips.ac.jpまたは03-6439-6047)までご連絡ください。副会長及び幹事は、会長による指名となっておりますので、立候補された方の中から次期会長が指名することとなります。次期会長の選出と次期会長による副会長及び幹事の指名は、2019年11月23日(土・祝)に開催される国内同窓会にて行います。

【参考】

政策研究大学院大学国内同窓会会則

(平成29年11月23日国内同窓会設立総会決定)抜粋

～略～

(役員等)

第4条 本会に、次に掲げる役員を置く。

会長 1名

副会長 若干名

幹事 若干名

2 会長は、本会を代表し、会務を統括する。会長は、会員の互選とする。

3 副会長は、会長による指名とし、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ定められた順位により、その職務を代行する。

4 幹事は、会長による指名とし、会長及び副会長を補佐し、会務の企画・遂行を担う。

5 役員の任期は2年とし、1回に限り再任されることができる。

～略～

ご案内 | カルチャーデイにお越しください

その名のとおり、本学の学生や友人たちが、それぞれの国の文化を紹介、体験しあう、まさにGRIPSらしき満点のイベントで、学生たちが企画、運営しています。今年度も以下のとおり開催が決定したそうですので、ご関心のある方はぜひお越しください。ご家族、ご友人のご参加も歓迎です。詳細は日程が近くなりましたらメールでご案内いたします。メールをお使いでない方でご関心のある方は、03-6439-6047までご連絡ください。

2019年度カルチャーデイ(予定)

日程:2019年9月7日(土) 会場:政策研究大学院大学

ご案内 | 埼玉県支部発! 埼玉下水処理場見学ツアー

埼玉県支部の関秀治さん(GRIPS地域政策プログラム2011年修了、公益財団法人埼玉県下水道公社経営企画課)が、埼玉県の下水处理場、荒川水循環センター見学ツアーを企画してくださ



しました。荒川水循環センターは流域下水道としては日本最大規模、下水処理の仕組みをご見学いただけます。土曜日開催ですので、ご家族の皆様もぜひお越しください。お子様のご参加も大歓迎です。ツアー終了後は懇親会を予定しています。



日時:2019年11月2日(土)15時00分～17時00分

集合時間 14時45分 現地(管理本館ロビー)集合

場所:荒川水循環センター 戸田市笹目5丁目37番地の14

JR武蔵浦和駅、戸田駅、戸田公園駅より路線バスで

終点下笹目下車(いずれも20分程度)下車後徒歩約5分

参加申込:2019年10月15日までに、alumni@grips.ac.jp宛、

氏名及び連絡先(メール及び携帯電話番号)、お役職、修了年(お分かりになれば)、懇親会ご参加の有無をご連絡ください。

ご案内 | 国内同窓会支部を発足しませんか

国内同窓会は、地方自治体、中央省庁、企業等の各派遣元やプログラム・コースなど、様々な単位で同窓会支部を作っていただくことができます。すでにいくつかの支部を発足していただいております。2019年5月までに14の支部が設立されています(以下設立順:インフラ政策、福島県、広島県・広島市、東京消防庁、埼玉県、千葉県、鳥取県・鳥取市、愛知県・豊田市、岩手県、兵庫県、熊本県、高知県、さいたま市、横浜市)。今後、修了生による懇親会の予定があり、各組織、地域で新たに同窓会支部を発足させたいとご希望のある方は、ぜひ、以下の担当までご連絡ください。本学より、横道理事・副学長や教職員、同窓会担当が出向いて、支部発足のお手伝いをいたします。

■連絡先:alumni@grips.ac.jp 03-6439-6047



同窓会・同窓会各支部からのご案内

報告 | 東京消防庁消防学校見学ツアー

2019年3月1日(金)国内同窓会東京消防庁支部の皆様のご協力により、消防学校見学ツアーを実施いたしました。ご参加くださった和田基靖さん(GRIPS防災・危機管理コース2017年修了、埼玉県庁)からご報告をいただきました。

3月1日の東京消防庁消防学校見学ツアーに参加しました。密度濃く圧倒されるばかりの大変貴重な機会でした。概要紹介の後、まず、模擬消火訓練装置を見学しました。次に、実際に走行していた車両が加工された狭隘な地下鉄訓練施設を見学しました。続いて、過去のテロ災害を踏まえて発隊した第三方面本部消防救助機動部隊では、NBC災害対応のための特殊災害対策車、高性能資機材等を解説いただきました。その後、消防車両1,959台と消防用重機・器具32,459点を整備対象とする装備部整備工場では、予防的取組みの重要性が強調されていました。最後にGRIPS同期の山越さん所属の消防技術安全所では、熱中症予防等について紹介いただきました。見学後の懇親会も、先生や職員の方、卒業生、現役生と触れ合える有意義な時間でした。関係者の皆様、ありがとうございました。(和田)



若松町はいま…

2019年4月19日(金)、若松町を訪ねてみました。都営大江戸線若松河田町駅周辺は、高層マンションやスーパーができ、すっかり様変わり。女子医大と韓国学校の間の細い道を進み(この道、水野原通りというそうです。紀州徳川家の附家老水野家の屋敷があったことに由来するそうですが、当時は知りませんでした)、跡地へ向かいます。現在は、東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設TWIns(ツインズ)があり、当時の校舎の面影はまったくありません。周辺も区画整理され、道幅が広がり、きれいになっています。錆だらけの門扉、パーベキューをした中庭と古い桜、階段図書館、不意に現れる猫に驚かされる地下室…、警備員の方に不審な目を向けられつつ、ひとしきり思いを馳せます。

懐かしいあけぼのばし通り。マンションが増え、活気があります。



あけぼのばし通りに向かう階段、夜道は少し怖かったですね…。

そのあとは、当事を思い出しつつ、若松町、曙橋通り周辺を歩きました。うなぎの高田、お蕎麦の長寿庵、図書館に雑誌を届けてくれた大石書店の店主さんは、GRIPSのことを覚えてくださっていました。懐かしいお店がたくさん残っていてうれしくなります。歩き疲れたところで、曙橋通りへ続く階段下の「のう天気」に腰を落着けました。

若松町にあったのは、1999年から移転までのわずか6年間。しかし、先生方、学生の皆さん、職員の距離感が非常に近く、そこで過ごした日々は、非常に思い出深く、忘れがたいものです。(野口)



当時の校舎



現在の様子

報告 | 第2回国内同窓会を開催～恩師・同窓生と再会！

2017年11月に正式に発足した国内同窓会の第2回同窓会を、2019年2月9日に開催しました。当日は、大雪にもめげず65名のご参加をいただきました。



同窓会では、現在、東京オリンピック・パラリンピックに関する仕事をされている修了生3名からの報告がありました。

(1) 東京2020大会に向けた東京消防庁の取組、河井英隆氏(東京消防庁企画調整部オリンピック・パラリンピック準備室課長補佐・2003年度修了)

(2) Tokyo2020に向けたさいたま市の取組、大西正悟氏(さいたま市都市戦略本部オリンピック・パラリンピック部・2016年度修了)

(3) Tokyo2020大会に向けた情報セキュリティ対策、坂明氏(日本サイバー犯罪対策センター理事、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会チーフ・インフォメーション・セキュリティ・オフィサー・1986年度修了)

Tokyo2020大会の成功に向けて第一戦で活躍中の修了生のホットな話題の提供は、同



窓会出席者の興味を大いに集めていました。報告者の方々、ありがとうございました。

続く大学からのお知らせでは、高木昭美幹事(国内同窓会幹事)から、国内同窓会の設立の経過、同窓会の現状と課題について報告があり、修了生の皆様へのご理解、ご協力、ご支援のお願いがありました。(高木)



大学からのご案内

GRIPS NEWS 会報では一部抜粋して掲載しております。大学公式ウェブサイトには多くのニュースが掲載されています。ぜひご覧ください。

2018年11月 「水と災害に関するハイレベルパネル及び国際シンポジウム」を開催

11月27日、皇太子殿下(当時)ご臨席のもと、各国の閣僚、行政、大学、研究機関、NGO等約270名が参加し、水と災害に関する意識高揚・行動促進や各国SDG政策の形成支援等を検討するハイレベルパネルと国際シンポジウム「水と災害に関する国際シンポジウムー歴史の教訓と世界の事例から学ぶー」が開催され、本学に本パネルの事務局が設置されました。



経済統合をいかに円滑に進め、深化していくかにかかっている。視野を常にアジア全域に広げてほしい。」と激励のお言葉を賜り、公共政策プログラム農業政策コース桑原克也さん(群馬県庁)が、「様々なことにチャレンジし、悩み、懸命に考えながら、自分自身を見つめなおす機会にもなった1年。これはゴールではなく、飛躍するためのスタート。」と抱負を述べました。



2019年4月 新入生入学



博士課程1名、修士課程54名、科目等履修生1名の計56名が入学しました。4月3日に開催された入学ガイダンスの冒頭のあいさつで、田中学長は、「GRIPS在学中に、専門知識を深め、また、視野を広げて欲しい。教授陣による講義から学ぶだけでなく、機関や国籍を超えて集まった多様な学生との交流の中からも多くのことを学ぶことができる。」と励ましの言葉を述べました。

2019年3月 春季学位記授与式挙行

3月26日、GRIPS創設以来19回目の春季学位記授与式が挙行され、59名に学位記が授与されました。渡辺修政策研究院長(元通商産業省事務次官、石油資源開発株式会社代表取締役会長)から、「在学中に得た国内外の同級生、特にアジアのとの友情は一生の財産、大切にしてください。少子高齢化社会を迎え、日本経済は諸外国、特にアジアとの経済統合が急速に進んでいる。これからの日本の将来は、東アジアの

2020年度入学者募集が始まります！

まもなく政策研究大学院大学修士課程国内プログラム、2020年度入学者の募集が始まります。ぜひご勤務先等でご案内ください。募集の詳細については、大学公式ウェブサイトをご参照ください。



GRIPSのSDGsへの貢献

GRIPSでは、「持続可能な開発目標」(SDGs)を研究教育、大学運営における指針として重視しています。このたび、GRIPSのSDGsへの貢献をまとめたリーフレットを作成しました。今後、修了生の皆様の活動も紹介させていただきたく、SDGsへの貢献が期待される業務をご担当されている方がいらっしゃいましたら、alumni@grips.ac.jpまでご連絡ください。



GRIPS基金へのご協力をお願い

GRIPSには、ミッドキャリアの行政官を中心に、日本を含む世界63の国と地域から学生が集まっており、世界で活躍できる指導者・政策プロフェッショナルの養成に努めています。皆様から募った基金を奨学金として、未来のリーダーを支援することにより、日本及び世界の持続的発展に繋がること、また、研究資金として、本学の政策研究活動を支えることにより、この分野での世界における本学ひいては日本のプレゼンスの向上に繋がることが期待されます。基金へのご寄付は、銀行振込・クレジットカード決済にて受け付けております。ぜひ、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

【お礼】2019年2月9日に開催された国内同窓会では、同窓会の皆様のご協力により、寄付金付きGRIPSグッズの販売を行いました。これは、GRIPSロゴマーク入りグッズを販売、売上額から作成費用や送料などの実費を除いた額を、修了生有志の皆様からのご寄付として、GRIPS基金に入金させていただくというものです。多数の皆様にご賛同いただき、38,682円をGRIPS基金にご寄付いただきました。誠にありがとうございました。



国内同窓会報に掲載する原稿を募集します

国内同窓会の各支部や各地域の会合のご案内、開催のご報告、会員の近況などを掲載したいと思っています。修了生紹介「政策の現場から」に登場くださる方も自薦他薦問わず募集中です。寄稿、行事のお知らせや写真など、alumni@grips.ac.jpまでお送りください。

■■ 編集後記 ■■

畠中先生はじめ編集委員の方々、ならびに大学事務局のご協力のおかげで会報第2号がまとまりました。同窓会役員の第1期の任期(2年)もまもなく終わろうとしています。同窓会は、事業計画、予算などまだ未整備の状況です。どうか、わが母校(alma mater)にご支援を！(高木)